

第1回 千歳市かわまちづくり推進協議会 議事要旨

■日 時：令和8年2月5日(木) 10:00~11:20

■場 所：千歳市総合福祉センター402号室

■出席者：

委員 14名（うち代理出席者2名）※、オブザーバー 1名

堀野会長、菊池副会長、南雲委員（安田委員の代理）、北山委員、角谷委員、市川委員、西山委員（藤吉委員の代理）、宮川委員、矢部委員、渡邊委員、松倉委員、辻委員、小野委員、橋本委員、立花オブザーバー

※ 鈴木委員、佐々木委員、松澤委員、川田委員は欠席

■議事内容：

次第に沿って、事務局（千歳市）から説明。

○事務局から、以下の3点について提案し了承された。

- ・本協議会は、公共事業として実施するハード整備等の内容が含まれ、これらは今後議論を重ね決定する事項となることから、議事の詳細は原則一般公開しないこととする。なお、議事概要および公表可能な資料は市のホームページで公開する。
- ・会議当日に会場に来られない場合、オンラインによる参加も可能とする。
- ・関係団体等の委員の代理出席は、会議当日に委員の都合がつかず代理者の出席の申出があった場合は、認めることとする。

○会長、副会長の選出

- ・会長は堀野委員、副会長は菊池委員に決定。

○「千歳市かわまちづくりのハード整備方針に関するアンケート」の実施について

- ・第2回の協議会に向け、各委員にアンケートを実施することについて事務局から説明。

○意見交換における各委員からの発言は以下のとおり。

- ・青年会議所で継続している川清掃を含め、ソフト面で関わっていくことができると思う。
- ・リバーシティ・プロジェクトも青年会議所の発信で実施しているため、イベント利用を見据えた清水町親水公園の整備について、今後意見を出していきたい。

- ・町内会への事業内容の説明や意見聴取はどのように実施する予定か。
→ハード整備にあたっては、都度地域への説明、意見聴取の場を設けたいと考えている。（事務局回答）
- ・カーボンニュートラルや CO₂ 排出量削減等の観点も取り入れながら整備できるとよい。
- ・千歳市も気候変動により気温の上昇が懸念されるため、未来の予測をしながら整備できるとよい。
- ・河川管理者として魅力ある河川づくりを進めるにあたり、本協議会の意見を取り入れて進めていきたい。
- ・ソフト施策としてキッチンカーの営業を想定する場合、どのようにしたらキッチンカーに来てもらうことができるのか。
→グリーンベルトでキッチンカーを日常的に営業する試行をしたことがある。営業開始当初は人が集まったが、徐々に減少した。人通りの多い場所でないとな新規客の獲得が難しい。そのため、人の流れと合わせて考える必要がある。（千歳市商業労働課回答）
- ・道の駅周辺の駐車場等の整備は課題が多いため、道の駅の指定管理者とも協議しながら進めていきたい。
- ・整備にあたり、千歳川に棲む生物にも配慮しながら進めていきたい。
- ・北海道の管理区間において、自由使用の範囲内でカヌー利用者があるが、道路沿いの柵が破損したことがあるため、カヌー乗り場を整備するのがよい。
- ・近年カヌー利用者が増加した印象がある。整備によって利用者が増加した場合の安全面も懸念されることから、ルール作りや利用者の制限も検討した方がよい。
- ・清水町親水公園がハード整備の肝となる。どのような利用を想定してどの程度の規模のものを整備するか、しっかりと議論する必要がある。
- ・ハード整備にはどの程度の予算を掛けることができるのか。
→予算を前提に議論するのではなく、まずはどのような利用がしたいか、そのために必要な整備内容を協議したうえで、予算とすり合わせていきたいと考えている。（千歳川河川事務所回答）
- ・整備に合わせ、管理・マナー・安全面は今後しっかりと検討していく必要がある。
- ・ソフト施策は、道の駅も主体的にアイデアを出しながら関わっていきたい。
- ・道の駅は現状でも混みあっており、アクティビティ利用者専用の駐車場を整備するのであれば、どのように適切な利用を担保するのか検討する必要がある。特定用途の利用に限定する場合、利用者には分かりづらくなることも懸念される。
- ・現状として路上駐車が多くの、適切な場所に駐車場が不足しているためとも考えられる。
- ・商業労働課では、リバーシティ・プロジェクト等の街中で開催するイベントに補助金を交付しており、かわまちづくりの推進に伴い見直しが必要な場合は適宜見直していきたい。

- ・道の駅周辺の駐車場は、無秩序に開放すると即座に埋まると予想されるため、すみ分けが必要である。一方で、観光課としてカヌー乗り場が整備されることはアピールしていきたい。すみ分けをしながら、どのように連携するかが課題である。
- ・駐車場の整備にあたり、マナー面や整備場所、容量も含めて地域の方と意見交換しながら広い視野で進めていきたい。
- ・社会教育として環境教育の場を市民に提供することは必要なことと考える。
- ・学校教育として子供が利用する場合、安全面の確保が最重要である。子供が安心・安全に学べる場となることも検討してほしい。

○その他

- ・事務局より、令和8年5月頃に現地視察、夏頃に第2回推進協議会の開催を予定していることを報告。
- ・第2回推進協議会では、本協議会後のアンケート結果および現地視察で挙げられた意見を踏まえたハード施策の整備方針案を提示する予定であることを説明。

以上